

ノリ養殖漁場におけるノリ芽消失に関する研究

有明海研究所

背景、目的

有明海の河口域におけるノリ養殖漁場では、生長したノリ芽が数日で消失し、生産が困難になるという現象が以前から発生し、問題となっていました。その原因として、カモによる食害が想定されていましたが、これまでその実態は不明でした。

そこで、本研究では、養殖漁場でのカモによるノリ芽の食害実態を明らかにするとともに、食害防止手法について検討を行いました。

成果の概要

(1) ノリ芽消失状況の把握

漁業者への聞き取り調査等から、ノリ芽の消失は河口域周辺の広い範囲で発生することが確認されました。

(2) カモによるノリ芽食害の実態

ノリ芽消失区域である筑後川河口付近のノリ漁場においてカモの飛来状況を調査したところ、海上で作業する漁船がいなくなる夜間の満潮時に多く飛来することがわかりました。

また、飛来したカモによるノリ芽の摂食行動とノリ芽の消失が確認され、捕獲したカモの消化管からは多くのノリ芽が見つかりました。

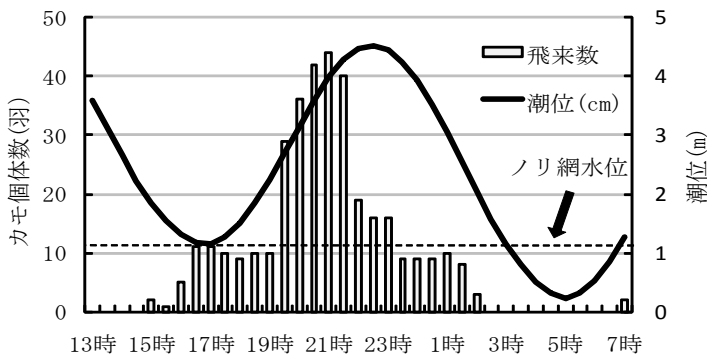
さらに、ノリ網の周囲にカモが侵入できないよう囲い網を設置したところ、ノリ芽の消失は発生しませんでした。

これらの結果から、河口域漁場でのノリ芽消失の原因は、カモによる食害であることが明らかになりました。

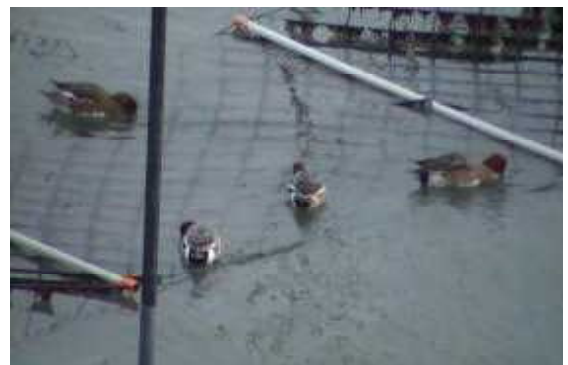


ノリ芽消失が確認された漁場
※赤塗区域：ノリ芽消失の確認漁場
黒点：ノリを捕食したカモの捕獲場所

この成果を周知することで、漁業者の間にはカモ対策の意識が高まり、現在、漁場の巡回パトロールが始まっています。



ノリ漁場への時間別カモ飛来状況



ノリを摂食するカモ